

《担当者名》○向谷地生良 (ikuyoshi@hoku-iryo-u.ac.jp) 橋本菊次郎 (hashimoto-kiku@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

精神保健福祉領域におけるリカバリーの理念に基づいた共同創造の理念と、新たな潮流として注目されつつあるオープンダイアログや当事者研究などの対話実践の構造を、組織や日常の実践に活かすための双方向的な学びを行う。

【学修目標】

精神保健福祉においてリカバリー概念に基づいた対話実践の基本を、実際の場面を想定して展開するための基礎を学ぶ。オープンダイアログや当事者研究などの対話実践を学ぶ研修の方法を体験的に学ぶ。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	授業の進め方についての説明と打ち合わせ	講義の全体の構成・狙いについて説明し、精神保健福祉領域における治療から地域ケアにおける対話実践の原則や実践の動向を概観し、講義の目的を確認する。現時点における自身の対話実践についての理解度および自身の対話実践について確認する。	向谷地橋本
3) 4	ケアの技法としてのオープンダイアログ	では、オープンダイアログが持っているケアの技法に触れながら、それを体験的に学び、で振り返りを行う。	大井雄一（特別講師）第3回 向谷地橋本
5) 6	組織論としての対話実践	では対話実践を「いかに働くか」という組織論の観点から問い直し、働き方改革としての対話実践を学ぶ。で振り返りを行う。	宇田川元一（特別講師）第5回 向谷地橋本
7) 8	対話実践としての伴走型支援	では相談対応型支援から伴走型支援が重視される中で、それを支える思想と実際の支援を学び、今後の実践に活かす。では特別講師も交え、振り返りを行う。	奥田知志（特別講師）第7回、第8回 向谷地橋本
9) 10	ケアとしての対話実践	では現象学者として西成をはじめ、貧困や病の最前線に身を置きながら考えるケアの本質から、対話の可能性を学ぶ。で振り返りを行う。	村上靖彦（特別講師）第9回 向谷地橋本
11) 12	対話実践としての当事者研究の理念と方法	これまでの学びを概観し、当事者研究の理念と方法を学びながら、対話実践としての具体的な展開の基礎を実践的に学ぶ。	向谷地橋本
13) 14	当事者研究の実際	当事者研究の実践に触れ、またファシリテーションを行う。	向谷地橋本
15	まとめ	本科目の振り返りを行う。	向谷地橋本

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（30%）、準備・参加状況（30%）、課題レポート（40%）による評価

【教科書】

適宜紹介する

【学修の準備】

事前に関連する文献や資料を読み込み、ディスカッション等に反映できるような準備が望まれる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

向谷地生良（精神保健福祉士） 橋本菊次郎（精神保健福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

精神保健福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。